大正元年十月一日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）大正二年八月一日發行　第一巻　第十一號

近代思想

八月號

■むだ花（感想）……榮（一）
■夢の娘（評論）……荒畑寒村（三）
■唯物史觀說にて就い（紹介）……小原愼三（八）
■蟻（詩）……土岐哀果（一〇）
■味噌汁（短歌）……安成二郎（一三）
■少しづゝ（詩）……德永保之助（一三）
■寂しき家より（感想）……上司小劍（一四）
■人間屠殺所（紹介）……佐藤緑葉（一八）
■人と超人（脚本）……堺利彦（二一）
■反譯漫語（雜錄）……漁六（二八）
■大久保より（雜錄）……榮（二九）
■新刊（批評）……寒、榮（三〇）
■寄贈雜誌、社告……（三三）

近代思想社

東京府下大久保百人町三五二

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Asia Library
AP 95 J2 K47 no.11

新音譜賣出し

ニッポノホン

鳴渡れり!! 噫々鳴渡れり!!

蓄音機の朗々たる美音は實に寒村僻地に鳴渡れり!!

何の故ぞや。此れ其工場に於て多年研究に腐心し之が改良進歩に心膽を碎きし賜に外なら なり

弊社は華客の趣向を旨とし嶄新なる音曲を選び茲に滿天下に紹介せんとす

●**ドンブラコ。**（桃太郎一代記）帝國歌劇部員演奏 北村季晴氏及初子女史 七、八、九、十（鷲印兩面盤）

七月賣出しに兒童諸君の大喝采を得たるドンブラコは注文雨の如くに繁し茲に引續き四種の賣出しを試みんとす

●**和洋合奏**（越後獅子、上、下、吾妻八景、娘道成寺）丹誤倶樂部員演奏（鷲印兩面盤）

丹誤倶樂部員の苦心の跡歴々たり和洋兩樂の調和誠に巧妙吾れを忘れて舞躍るの感あり

●**浪花節**（大高源吾、山鹿護送道中付上、中、下）（西郷南洲 上 下）東家樂燕（赤鷲印兩面

浪界の尤物東家樂燕現はれたり心身共に溶けんばかりの聲調

●**唱歌**（小學唱歌二宮金次郎、よく學びよく遊へ、雲雀（田植、蟬、浦島太郎、案山子、富士山、仁田四郎、雪

納所文子孃の玲瓏たる聲音文部省發行の小學唱歌十種兒童諸 たり

●**軍樂隊**（Valse, Loin du Bal, Cavaleria Rusticana Seleetion）陸軍戸山學校（鷲印兩面盤

世界に覇を爭はんとする戸山學校軍樂隊が其最得意とせる て血沸き肉躍るの感あり

鷲印兩面盤　金壹圓五拾錢

赤鷲印兩面盤　金貳圓也

全國四十の出張所と四百の特約店あり

神奈川縣川崎町

株式會社 **日本蓄音器商會本店**

電話川崎四九番

東京銀座一丁目

全卸賣及小賣部

電話京橋二五七・二五八・二八八七番

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

213-442254

第一巻 第十一號

むだ花

生は永久の闘ひである。
自然との闘ひ、社會との闘ひ、他の生との闘ひ、
永久に解決のない闘ひである。

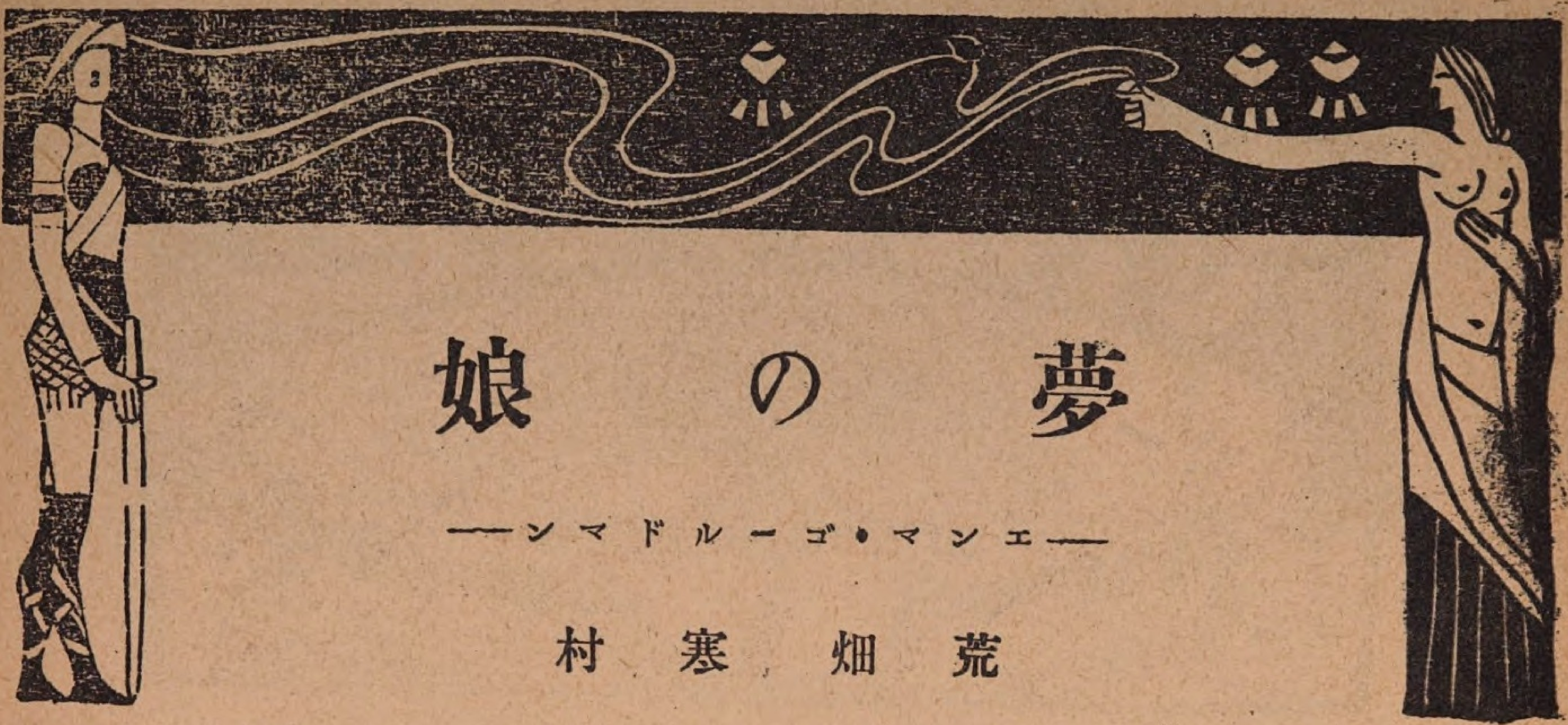
闘へ。
闘ひは生の花である。
みのり多き生の花である。

自然力に屈服した生のあきらめ、
社會力に屈服した生のあきらめ、
かくして生の闘ひを回避した
みのりなき生の花は咲いた。
宗教がそれだ。
藝術がそれだ。

むだ花の蜜をのみあさる虫けらの徒よ。

—榮—

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN



娘の夢

——エンマ・ゴールドマン——

荒畑寒村

一

群衆の間の孤獨！此の語は、常に荊蕀を以て敷かれた路を歩める、凡ての革命家の運命である。權力階級の迫害！同志の誤解と猜疑！此の兩間に立つて、猶且つ主義に對する信念を失はざらんとするは、不屈なる意志と火の如き熱情とを有する者でなければダメである。エンマ・ゴールドマンが、アナアキズムの如き極めて不人望なる理想の宣傳者として、一歩も讓歩する事なき革命婦人として、漸く北米の天地に、燃ゆるが如き了解と讚歎とを贏ち得るに至つたのは、實に彼女が卅年に亘れる不斷の戰ひの結果であつた。僕は此の一篇を、彼の社會改革を除いて個人的解放の存せざるを悟らず、女性の奴隸的境遇が現社會の經濟組織の所産なるを知らず、自個完成と稱する羊頭をかけて藝術的遊戲の狗肉を賣れる、謂ゆる『新らしい女』に示したいと思ふ。

エンマ・ゴールドマンは、一八六九年六月二十七日、露領波蘭コフノの猶太人の家に生れた。彼女はその幼時を、父が役所に勤めてゐたクルランド（バルチツク縣の一地方）に送つたが、その後年の讓歩を知らざる叛逆的精神の芽は、實に當時に播かれた處であつた。彼女は父が憎むべき猶太人の故を以て、また下級の小官吏の故を以て、上官から二重に迫害さるゝを見た。大家族を獨力で支へてゐる壯者が、基督敎徒の爲に暴力を以て兵營に曳かれ、悲慘なる兵隊生活を送るを見た。同種族なる猶太女の召使は、主人の爲に殺さる許りの目に會ひ、聯隊の士官には、獸慾を滿足さす器具の如く見られ、主人には慰さまれ、主婦からは家を追ひ出された！凡てこういふ哀れな女達は、エンマの家を隱れ家とした。そして同情に胸痛む許りなるエンマは、親の用簞笥から金を取出しては、不幸な同性に與ふるが常であつた。

七歳の時、彼女は東部普魯西のケニヒスベルグに居る祖母の許に送られた。その間の生活は餘り愉快ではなかつたが、父母の同じくケニヒスベルグに移り住むに及んで學校にも通ひまた家庭敎師にも就くを得、殊に音樂と佛蘭西語とを勉强した。

八二年エンマ十三歳の折、一家は聖彼得堡に移つた。當時、智識階級と政府との爭闘その絶頂に達し、前年アレキサンダア二世を斃せるソヒア・ペロフスカヤ、ゼリア

ホフ、グリネビツキー、リツサコフ、キバルチツチ、ミハイロフ等は悉く殉難者の死を遂げ、獨りジエツシー・ヘルフマンは、懐姙の爲に死を恕されて西比利亞に送られた。ナイヒリストといふ名は萬人の口に上り、その勇敢な行爲と犧牲的精神とは、軍人、學生、官吏、職工、農夫等を起たしめて、進んで革命家の苦き運命を追はしめた。新しき思想は青年の胸に燃え、性の差別は忘れられ、男と女とは肩と肩とを接して戰つた！露西亞語の研究は、直ちに若きエンマをして、革命黨の學生と新思想とに觸れさせた。曾てケニヒスベルグで讀み耽つたマーリツトの小說は、ネクラソフとチエルニエフスキーとに代へられ、女王ルイズの歸依渴仰者は熱烈なる自由の愛慕者となつた。そして多くの青年男女の如く、彼女も又、平民の解放の爲に一身を献げんと決心したのである。然し、若き理想家が誰でも經驗する如く、迫害は先づ家族から起つた。殆んど每日の出來事となれる心を碎くやうな親子の爭ひの間に、エンマを慰さむる者は只だ一人ヘレネといふ姉ばかり。後年米國に於ける峻酷なる迫害の渦中に在て、家庭に於けると等しくエンマを慰さめた者は、また實に此のヘレネであつた。

『V NAROD！』此の合言葉を口にして、『平民の中に』往ける多くの青年男女の例に倣つて、彼女は先づコルセツト工場に雇はれ、次で手袋工場の女工となつた。時に年甫めて十七。若しこうして永く露國に止まつて居たら、遲かれ速かれ彼女も多くの同志の如く西比利亞の雪に埋もれたであらう。恰かもよし、姉のヘレネは長姉が家庭を作つて居る米國へ航る事になつたので、エンマは是非なく乞ふて同行した。米國！人民の共和國！ツアール無く、コサツク無き、自由平等の理想國！被壓制者が約束の地、進步に對する凡ての希望の決勝點！。八六年紐育からロチエスターへ旅行中、ヘレネとエンマとはこう思つて血を躍らした。が、幻滅はこゝにも彼女を俟つて居た。一人で無く數十人のツアール、コサツクに代れる巡查、同じ政府の壓制に酷虐！同じ人民の生血を絞らるゝ悲鳴哀泣！。エンマは間もなく、ガルソン會社の紡績工場に雇はれて一週二弗半の賃銀を得た。當時工場はまだ動力を具へて居なかつたので、哀れな工女は未明から夜おそく迄、足で車を廻さればならなかつた。恐ろしい激勞！一條の日光とても這入らず、永い日は冷き沈默の裡に曳ずるやうに過ぎて往く。面白おかしく話しながら仕事をする露西亞の風習は、此の自由なる國の工場では許されてゐなつた。工女同志の賃銀競爭も烈しかつたまたより安い賃銀で雇はれやうとする競爭者の者に、いつも失業の不安に襲はれてゐた。エンマは風習は違ふし言語は不通だし智識と思想とを交換するに術無き、此の米國の小さな町の生活に倦み疲れて、只管友情と理解とに憧憬れた。實に彼女が露語を語る一青年と知り合つて、遂に結婚するに至つたのは、此の當時だつたのである。

二

エンマ・ゴールドマンも又、結婚生活の悲しき路を步める一人であつた。結婚は彼女をば、生活の苦痛と單調とから救はなかつたのみならず、二人の性格は餘りに違ひ過ぎてゐたので、エンマは間もなく夫から別れて、ニユー・ハブンに赴むいた。

彼女が米國に航つたのは、四年前露西亞に於けるが如く、大なる社會的及び政治的不穩の時代であつた。勞働階級はその恐るべき狀態に反抗し、八時間運動に[illegible]絶

項に達し、そして國内を通じて監工者と警吏との血の叫びが反響した。此の爭闘はシカゴに於けるハアベスター會社に對する大同盟罷工、罷工者の鏖殺、及び八七年ヘイマーケット爆裂彈事件に續ける勞働黨首領の法律的虐殺を以てその頂點に達し、パアソン、スパイク、フイツシヤア、及びエンゲル等のアナアキストは血の洗禮を受けた。政府は彼等の虐殺に依て、世界を燃せる理想を根絶し得べしと考へた。安んぞ知らん此の殉難者の血と骸より更に新しき芽を生じ、更に新しき改宗を作らんとは。米國に於て最も有名なる無政府主義の代表的二婦人、故ボルテリーヌ・ド・クレール及びエンマ・ゴールドマンは、實に此のシカゴ殉難者の法律的殺害に依て、アナアキストとなつたのである。

八七年十一月十一日、五人のアナアキストが死刑に處せられた日、エンマの心は此の罪惡に對して火の如く燃えた。彼女は苟くも政府と稱する限り、露國の專制政府と米國の共和政府との間に何の差異なきを知り、そして革命的勞働者の群に投じて、賃銀奴隷の解放に全身全力を獻げんと盟つた。かくて熱心に社會主義無政府主義の文書を讀破し、集會に出席し、勞働者と交際した。故ジョン・モストの發行してゐたフライハイトも讀んだ。また此處で、理論的には「ジョシア・ワアレン、ステフエン・パアル・アンドリウス、リサンダア・スプウナアに依て、哲學的にはエマアソン、ソウリユウ、及びワルト・ホイツトマン等に依て、アナアキズムを研究した。過激な工場勞働ですつかり健康を損れたエンマは、一度ロウチエスターに移つたが、八九年八月更に紐育に轉じた。漸く二十歳となつた彼女は惱みに顔の色も蒼く、大きな眼は愍れみの念に輝やき、そして露國の女學生風に短かく斷つた髮の毛は、強き額に波打つてゐた。

政府の迫害が烈しくなればなる程、戰闘的アナアキズムの氣勢は益々強まり、新哲學の學徒は秘密な手段で傳道に努めた。そして多くの犠牲が官憲の手に落ちて、空しく牢獄に逝けるにも拘はらず、ピヨートル・クラポトキン、ルイズ・ミツシエル、エリゼ・ルクリユス等の努力は、更に大なる信念の火を歸依者の胸に燃さしめた。

エンマが紐育に來て、初めて聞いたアナアキズムの講演家は、博士ソロタロツフであつた。ビスマルクの社會黨鎭壓令の爲めに故國を追はれて、紐育でフライハイトの發行を續けてゐたモストとの交際、その比ひ稀れなる雄辯、不撓の努力、その迫害に對する堅忍は、多くの同志と等しくまたエンマに大なる感化を與へた。今はその夫たるアレキサンダア・ベルクマンと知り合つたのも、實に此の時代であつた。熱烈なる彼女の生涯は、やがてその幕を上げた。激しい工場勞働に從ひ乍ら、此の若き使徒は火焔の如き熱情と怒濤の如き雄辯を以て、勞働階級の間にアナアキズムを宣傳し始めた。

翌年、エンマは紐育の無政府黨大會に委員として出席したが、實行方法に就て、端なく中央集權派、並びに議會政策派と異見を生じ、遂にモスト等と分離するに至つた。九二年、大同盟罷工がピツツブルグに起つた。爭闘、流血、軍隊の出動、而して罷工者の敗衄。當時廿二歳の青年ベルクマンは痛憤措かず、ピツツブルグの資本家フリツクを暗殺せんとして失敗し、遂に廿二年間の禁獄に處せられた。紳士閥新聞は筆を揃へてアナアキストを攻撃し、官憲は百方手を盡してエンマを此の渦中に捲き込まうとした。殊にモスト一派獨乙及び猶太アナ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

アナアキストが、ベルクマンの行爲に對する峻酷な非難は、彼女の涙無くしては堪へられぬ迄であつた。その極力ベルクマンを庇護したのと、平生の革命運動の爲に、エンマは今や一夜の宿りを求むるさへ難いほど迫害された。されど姓名を詐稱するを屑しとせず、また友人に危險の及ぶを恐れた彼女は、夜毎公園に露宿したのである。然し永久に露宿する事も出來ないので、遂に淫賣婦ばかり住つてゐる貸長屋に引移つて、裁縫機械を唯一の生計の便りとした。が過度の憂悶と激勞とは、遂に彼女を肺結核の犠牲とした。やがて彼女は、ボヘミヤの同志が多く住んでゐる貸長屋、俗稱『ボヘミヤ共和國』に移され、ヂヤスタス・シワツブ、博士ソロタロツフ、エドワアド・ブレーデイ等に看護された。が更に靜養する必要があるので、彼女は紐育を去つてロウチエスターニ赴いた。彼女の父母は數年前米國に移住してゐたので、娘の思想行動を是認同情はしなかつたが、猶且つ優しき親心を以て病める娘を迎へた。殊に愛する姉ヘレネの看護は、エンマをして幾何もなく健康に復さしめた。

彼女は再び荊棘の路を踏んで、傳教煽動の旅を續けたのである。當時米國は經濟的恐慌に襲はれ、失業者は隨所に群を成し、アナアキストは是等失業者及び罷工者の間に熱心に傳道してゐた。八九年教授ガルサイド、及びジヨセフ・バロンデスに指導された罷業外套職工の大示威運動、紐育ユニオン街に催さるゝや、エンマは火の如き雄辯に賃銀奴隷の慘狀を演說し、カーヂナル・マンニングが『必要は法律を知らず、餓ゑたる者は必然に他人のパンを喰ふべき權利あり。』といふ有名な語を引き、最後に『職業を求めよ、職業を與へずんばパンを求めよ、兩つ乍ら與へられずんばパンを取れ。』と叫んだ。翌日ヒラデルフイヤに赴いて、公開の席に一場の演說を試みんとするや、費府の官憲は紐育警察長バーンスの命に從ひ、エンマを捕縛して數日間モヤメンシング監獄に拘留した。そして紐育に護送せらるゝ途次、探偵ジヤコブは賞金を餌に同志を裏切れと勸めた。九三年十月、十二人の證人が非認せるにも拘はらず、只だ一人の賤しむべき探偵ジヤコブの證言の爲め、エンマは一揆煽動の罪に依てブラツクウエル島の監獄に一年を送る事となつた。病監附看護婦として楚囚の日を送れる旁ら、米國及び歐洲大陸の文學を專心研究せる彼女は、九四年二十五歲にして出獄した。

三

當時、佛蘭西に於けるアナアキストの爭鬪その絕頂に達し、共和政府の迫害に對する同志の激烈な反抗は、全世界のアナアキストを憂慎に慄へさせた。エンマは歐州の形勢をも見ばやと出獄の翌年渡歐し、英國及び蘇格蘭で講演をした後、ウインナに赴いて産婆及び看護婦の業を修め、旁ら社會狀態を研究した。ハウプトマン、ニイチエ、イブセン、ゾラ、ハアディ等の作物研究に沒頭したのも、また此の頃であつた。

先是、ベルクマンに對する宣告は、甚くも急進思想家の反感を買ひ、アアネスト・クロスビーの如きは、ベルクマンが自個の行爲を全然非認しさへすれば、カアネギーを說いて釋放させやうと云つたが、ベルクマンは固よりそんな卑怯な事はしなかつた。然し是れ以來、エンマはクロスビー、ホール、アボツト等の團體と非常に親しくなつた。九七年彼女はカリホルニアまで講演旅行を試み、モーゼス・ハルマン翁と會

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

見した。米西戰爭當時には、伊太利同志と結んで革命運動の資金を募り、九九年には太平洋沿岸までも傳道旅行に赴く等、處世匆忙席暖まるに遑あらず、且つ此の間、逮捕起訴頻々として襲つたが、幸にして常に無事であつた。十一月再び英蘇兩國に航つて講演を試み、兼てトム・マンや、詩人ロセツチの娘にして、當時無政府主義雜誌『炬火』の發行者であつたロセツチにも會ひ、クラポトキン、マラテスタ、チヤイコフスキー、チエルケソフ、ミツシエル等とも交はるの機會を得た。エンマは如何に久しく此の日を俟ち望んだらう、人道の老戰士！自由の老戰士！されど往時の勇氣を以て常に若く、アナアキーの最後の勝利の堅き希望に滿てる老戰士との會合！。

曩に萬國勞働同盟破るゝや、社會黨と無政府黨とは全く相乖離し、八九年巴里の大會、九二年ズウリツヒの大會、九六年倫敦の大會は、和解し難き間隙を作つた。過去の光彩ある歴史を抛つて、政權に戀々たる政商と化せる社會民主黨は、革命黨及び無政府黨の代表者を除外したので、同志は一九〇〇年巴里に第一回無政府黨大會を開いたが、開會に先つ二日、社會黨大臣ミルランの爲に禁ぜられたので、郊外なる同志の家に秘密會議を開き、こゝに理論と實行方法とが議せられた。エンマもまた委員の一人として列席したが、佛國政府からは退去せしめられんとし、ベルクマンの脱獄計畫は又も失敗に歸した報が到つたので、十一月米國に歸つて看護婦となり、餘れる力と時とを運動に費した。西班牙政府が政治犯に加へた拷問に反抗する爲め、大集會を催したのも此頃であつた。また當時、その患者にスタンダア夫人といふ、有名な淫賣宿の主婦があつたが、或る夜、エンマが患者の室に入ると、一人の容貌卑しい男と會つた。よく見ると、曾て彼女を費府から紐育に護送の途次、裏切を勸めた探偵ヂヤコブで、曩日の無禮を平謝まりに謝まつた。蓋し彼は此の淫賣宿の保護者で、また警察との仲介者だつたのである。

一九〇一年、クラポトキンの聘されて米國に航つて露西亞文學を講ずるや、エンマの盡力に依てアナアキズムの講演をも開いた、また彼女の力で、同志チヤールス・モウブレイ、ジョン・ターナア等の講演も催された。九月六日、大統領マツキンレイがバフアロウでレオン・ゾルゴツズに殺された時、エンマ及び他の同志は共犯の嫌疑で數週を未決監に送つた。野獸の如き警吏の暴戻な取扱は忍ぶべし、然れ共多くの同志がゾルゴツズに對する誤解は堪へ難く、彼女は直ちにゾルゴツズの行爲を説明せる論文を公けした。同志の非難、政府の迫害は、再び彼女をして住むべき家を失はしめ、放浪生活を送らしめた。その結果、傳道も運動も全く不可能となり、一九〇一年より三年に至る間、單に看護婦を職とせる旁ら、近代文學、就中近代劇の研究に心を潛むるのみであつた。

然し乍ら、ジョン・タナアの渡米は再び彼女を起たしめ、タナアの爲に無政府黨退去令に反して戰はしめた。露國俳優パウル・オルレネフ、及びナジモヷ夫人一座の渡米するや、彼女は一座の支配人として紐育及びシカゴに成功を博した。六年三月、バジンスキー其他同志の扶けを藉り、非常な困難を凌いで發刊した無政府主義雜誌『マザア・アース』の資金の大部分は、オルレネフ一座の寄附に成たのである。五月にはベルクマンが出獄した。あゝ誰か彼の復活を信じたらう。然も十四年ぶりに再び天日に浴した彼は、昔の儘なる火の如き理想

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

家、勇敢なるアナアキストであつた。

露國の革命運動が非常な成功を收めたのは、米國に於ける亡命者の經濟的助力に俟つ處が多い。殊に相次で米國を訪ふて、自由に對する戰ひの爲に同胞の同情を喚起し、その永續と維持との爲に資金を集めんとしたチヤイコフスキー、ブレシコフスカヤ女史、ゲルシユニ等の驚くべき成功は、大部分エンマが雄辯と、努力と、團結の手腕とに依たのである。七年エンマは和蘭アムステルダムに開かれた第二回無政府黨大會に出席し、歸國後直ちに三回の大講演旅行を試みた。當時桑港で講演會に出席した爲め、ウイリアム・ファルダアと稱する一兵士が、軍法會議に附せられて一年間の禁獄に處せられた。多謝す、政府は一個の兵士を失ひ　由は一人の戰士を得た！。エンマの活動愈々狂熱を加へ、運動益々激烈となるに連れ、政府は有ゆる卑劣手段を廻らして鎭壓せんとした。此の言論自由に對する陰謀は、米國の智識階級に依て破られたので、更に二十年前に別れた夫の去處不明を楯にとつて、彼女の市民權を奪つた。勿論彼女は喜こんで有名無實の權利を拋棄したのである。

四

人類の苦惱に對する深き憐愍と同情、自已に對する斷乎たる正直、是れエンマ・ゴールドマンの主なる性格である。敵も味方も彼女の歩みを阻める事は出來ぬ。彼女はその信念、自己の靈魂と肉體との所有權を拋棄するよ　は、寧ろ死を迸ぶのである。彼女の急進思想は、その智識の裝飾では無い。彼女は單にアナアキーの新哲學を論説するに止まらぬ、然し乍ら實にその體現を主張する。さればピエトロ・ゴリは彼女を評して『道徳の力』と云つた。また曰く『豫言者の透察力を以て、被壓制者が新王國の到來を豫言する婦人！理論と深き眞摯とを以て、社會の疾患を解剖し、藝術家の技巧を以て、自由平等友愛の上に築かれた人道の曙を描く婦人！』と。ウイリアム・リーデーは彼女に於て、『夢の娘』を見る、そして『その福音は夢、然もその夢や、凡ての眞に英靈なる男女の夢なり。』と云つた。

行爲に對する責任を恐れて、哲學的無政府主義の語を捨出せる卑怯者！エンマ・ゴールドマン斯る卑怯なる口實の背後に、一身の安全を見出さんとするには、餘りに眞摯に餘りに敢爲である。彼女は純粹なる、而して單純なるアナアキストである。ジヨシア・ワアレン、プルウドン、バクウニン、クラポトキン等に依て作られたアナアキズムの理想の代表者である。然も又、彼女はカセリオ、ベイラント、ブレツシ、ベルクマン、乃至ゾルゴツズをして、暴力的行爲に出でしめた心理的原因を理解してゐる。彼女はその同志中に、此の社會的爭鬪のアレナに於て、暗黒と殘虐との力と戰つて傷痍を受けた者の多いのを誇つてゐる。

エンマ・ゴールドマンはイプ　ンの脚本數種の譯評の外、一昨年マザア・アース社から 'Anarchism and Other Essays' といふ書を出してゐる。内の『近代劇論』は本誌第一號及び第二號に梗概を譯したが、更に次號に同書の『婦人解放の悲劇』を譯さうと思つてゐる。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

唯物史觀に就いて

小原愼三

マルクスの唯物史觀が近代の社會學者に依つて、如何に解釋され、如何に批評されて居るかを知るのも必らずしも無用ではあるまい。次に紹介するのは、米國ミゾリー大學のエルウツドの書いた Marx's "Economic Determinism" in the light of modern psychology の大意である。

カル、・マルクスは社會學界に於けるダアキンであるとは、近來幾多の社會主義者が盛んに主張してゐる所である。然し可笑しいことには從來社會學者は、此の問題に就いて、餘り大なる注意を拂はなかつた。

今予は近代の科學的心理學を基礎として、此の唯物史觀に批評を加へたいと思ふけれども、マルクスの唯物史觀そのもの丶眞相が未だ十分確定されない今日に於いて之を爲すことは甚だ容易なる業ではない。

唯物的史觀に就いては從來種々の解釋が下されて居るが、彼のフエリ教授は之に關して次の樣な說明を下して居る。之は恐らくは正鵠を得たものだらうと思はれる。曰く『經濟現象は他の一切の社會現象の基礎根底であつて、又之が決定原因となるべきものである。從つて倫理、法律、政治の如きものは、或特殊の歷史的段階及び地理的條件の下に於ける一個の民族の狀態に應じて經濟的要素が決定したる派生的社會現象（デリベーチヴフエノメナ）に過ぎないものである』と。氏は其後此の定義に次の如き條件を附け加へた。曰く『道德、法律、政治の如き社會現象は經濟的原因に依つて決定されるものではあるが、是等の諸現象は又逆に經濟現象に尠からざる影響を與へる。唯だ其の度合は經濟現象が他の現象に與ふる影響に比して甚だ微弱である。』

此の前提が眞であるとすれば、マルクス派の社會主義者の信條とせる『經濟狀態が間違つてゐる以上は、他の總ての社會狀態は必ず間違つて居る。故に經濟狀態を改革すれば他の一切の社會狀態は改革される』といふ結論も亦從つて眞でなければならぬ。勿論マルクスと雖も經濟的要素以外の總ての社會的要素を無視した譯ではないが、尠くともマルクス及びマルクス派の學者が、他の一切の社會現象をして、經濟現象に對して從屬的の關係に立たしめて居るといふことは、拒否し得べからざる事實である。

近代の心理學は、單一生命體（インヂビジユアルライフ）といふものを以て、外界が之に加ふる種々の刺戟に對して特殊の反應を呈する有機體だと說明して居る。所が此の刺戟に對する反應の性質は、此の有機體の遺傳的性狀と及び此の有機體が生存中に於いて獲得せる特殊の性狀との如何に依つて決定される。而して此の有機體が或特別なる刺戟に對して有する反應が、他の種類の刺戟に對して有する反應に影響を與ふるのは、唯だ之が爲めに此の有機體の有する全體の習慣が影響される場合に於いてのみである。一の有機體が外界の刺戟に對して有する種々の反應は、大體に於いて相互ひに沒交渉のものであつて、一の反應が他の反應の決定原因となる樣なことは殆んどないといふのが近代に於ける心理學の結論である。勿論、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

單一生命體には人格の統一といふものがある以上は、一定の刺戟に對する或特殊の反應に變調を見る時には、他の種類の刺戟に對する反應も、之に伴つて多少の變化を見るは免れ得べからざることである。が然し、之がよし眞だからといつて、彼の經濟的刺戟に對する人間の反應が變はつたからして、他の一切の刺戟に對する反應も之に從つて變化するものだとは云ふことは出來ぬ。

近代の心理學は、社會といふものを以て 外界より加はる刺戟に對して種々の反應を呈する有機體の結合より成れるものだと說明して居る。而して學者は是等各種の刺戟を呼ぶに、社會的原因なる語を以てして居る。刺戟に對する反應は個々の有機體の內在的特性に依つて決定されると同樣に、是等個々の有機體の結合より成れる社會が、刺戟に對して呈する反應は、此の社會團體を組織せる個々の有機體が有する遺傳的特性と習慣とに依つて決定されるのである。而して斯くの如く社會の反應を惹き起す種々の刺戟は、之を分類すると、經濟的、生殖的、政治的、宗教的等の如きものに區別される。そして、此の內、經濟的刺戟は主として富の生產及び分配に關する刺戟即ち經濟的價値に關する刺戟を意味するのである。

故に、既に一個の有機體が、種々の刺戟に對して有するいろいろの反應が、殆んど相互に何等の關係影響をも有せざるものである以上は、一個の社會團體が政治とか、宗教とか、道德とか、法律とか、經濟とかいふ樣な種々の刺戟に對して有する反應の內にて、特に經濟といふ刺戟に對する反應のみが他の刺戟に對する反應を支配し決定する樣なことは、嚴密なる心理學の法則の上から見れば殆んど不可能のことゝ謂つて差支がない。

エルウッドは、斯の如く近代心理學の立場より唯物的史觀を評した後、更に進んで次の如くに論を結んで居る。曰く、經濟といふ社會的の要素を、特に強調したマルクスの歷史觀は明かに誤まつてゐる。社會の進化といふものは、單に經濟といふ一本調子の軌道を辷つて行くものでは無くして、地理、人種、政治、宗教、教育等も亦、經濟的要素と同樣に重大なる職分を社會進化に對して有するものである。約言すれば、社會生活といふものは、單に其の一局面に基礎を置いて、單に一個の原因に依つて說明し盡され得べき性質のものではない。之を十分に說明せんが爲めには、社會生活に現はれたる總ての要素を基礎とした綜合的の見解に依らなければならぬ。

之が眞なることを證せんが爲めに、エルウッドは、西比利亞のツンガス民族の實例を引いて、此の民族の間に於いては、種々雜多の經濟的段階が存在して居るにも係はらず、彼等の習俗、性格思想、宗教等は殆んど何等の相違した所を發見しないと謂つて居る。氏は更に支那やイスラエルやヒブリユー等の歷史を引證して是等の國の社會的進化は決して經濟的要素に依つて支配されたものでは無く、寧ろ宗教に依つて影響されたことが甚だ多くあつたことを述べて居る。

最後に氏は、歷史的進化は全然經濟的の過程ではなくして、寧ろ、社會心理的、即ち社會學的の過程であると斷言し、彼の修正派の態度に對して贊意を表してゐる。

蟻

哀果生

家のなかへ
蟻がはいつて來て、こまります。

手水ばちのそばの土臺石から、
えんがはの隅のはしらをのぼつて、
あくせく、
ぞろぞろと這つてくるので。

じつにこまります、——
見つけるたびに指のさきでひねりつぶすのです
が、
とても追つかないので、
濡れたぞうきんでずらりと拭きとると、
それでもダメです、
二匹や三匹は死にますが、
おほくはまだ、赤黑くぴく〱びく〱と手やあしをおし
もんで、
をどりもだえながら、生きかへります。

おや、こゝにも！
あら、こゝにも、まあー！
とだなでも、茶だんすでも、
あまいものさへあれば、どんな高いとこでも、
どんな遠いところでも。

女中のこぼした砂糖のこなに、
むすめのつぶしたボンボンの汁に、——
中元のおしるしにとくれたようかんのはこ、
その人のかへつたあとで、すぐ、きらうとすると、
もう、その中に、うようよとたかつてるのですか
らね。

おもひついて、
母の來たときに、たばこのこなをもらつて、
その土臺石の柱のすみに、
撒きましたら、
しばらくのぼつて來ませんでしたが、
まもなく、また、

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

路をかへて、そこにも、こゝにも。
まつたく手におへません!

しかし、蟻にとつては、こゝが、
人の家だから這いつてきてはいかん……
そんなわけはないのですからね、——
たゞあまいものを口に入れるためには、どんなと
　ころでも、
かつてに這つてかまはないのですから。

ひねりつぶす指、濡れたぞうきん、彼等にとつて、
これほど無法な、けしからんものはないでせう。

とはいへ、
ほんとうにこまります、
家のなかへ蟻がはいつて來るのは!
べつに人間に害をするのではありませんけれど、
氣もちがわるくて。

『こりやね、』と、ぼくは、かないに言ひました、
『あまいものを一さい家の中におかないにかぎ
　る——』
かないは、『でも、』と、ばかなことを言ふといふ
　やうな顔をして、
『そんなことはとてもできませんよ、』と言ひまし
　た。

手のつけようがありません!
それで、いまでも、やはり、あひかはらず、
家のなかへ、
蟻がはいつて來るので、こまつてます。
なにかうまいくふうはないでせうかねえ

■ 不平なく（土岐哀果著）

昨年六月頃から今年四月頃まで、約一年間に作れる短歌、及び長詩を集めたものである。著者の詩歌に就ては、改めて批評する必要も無い位である。端的に自己の生活を詠ひ出でて、その日常生活の悲哀苦悶を通して凡人の共通煩悶に觸れた處に、著者の歌なり詩なりの價値があるのだと信ずる。猶、哀果は九月一日から『生活と藝術』と題する雜誌を、東雲堂から出すさうである。（金廿五錢日本橋區通四丁目春陽堂發行）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

味噌汁

安成二郎

舊き思想は悲し
　大いなる
桂の頭、見て思ふこと

悄げるな働け！
嘉悦孝子のモツトーの『怒るな働け』は
　われに適せず

今や、首を縊らんとする刹那、
　鼻を襲ひし
味噌汁の香ひかな

十八の時、日給二十五錢貰ひしが、
　あのまゝ辛抱したら
今、いくらになりしやらん

好人物と、
　われを言ひし男に金を借りて、
　返さず、此頃は何と云ふらん

生れる子が可愛くなりはしまいかと
　恐れてゐしが、
果して然り

輪廻說に從へば、――
　死んだ親父が金持に生れ來るは
何時やらん

鯤、鵬となり
　水に翼うつて上ること三千里――
行きつまつた生活にはなき思想かな

讀み終へし國禁の書に肱を突き、
　ユートピア
目に、描く樂しさ

女よりも酒よりも藝術よりもなほ外に、吾にはある如し何か知られど
――哀果「不平なく」――

少しづゝ

徳永保之助

少しづゝ呑みゆけば、
少しづゝ醉は頭へのぼる。

狹き稽古部屋に、
やがて舞踏は始まれり、
オーケストラ、調子の合はぬ、めちやくちやな
　騷がしさよ、
わが忠實なる踊子のすはだかの一群れは金髪を
　ふりみだし、
ドガのそれよりも細長き足をあげ、蛇のごとく
に手をうねり回して舞ひ狂へど。——

忽ちに彼らは飽き果てたり、
而して唯だその足を高くあげ、
靴をもてわが天井をうつ競爭をはじめたり。

わが頭蓋骨を見よ、
血はにじみ出で、滴るなり、
またみよ、かの踊子の眞白な内股を、
やぶれ裂けて血の流るゝにまかせたり。

あゝ壁に縋れる時計の顏はわれをわらへり。

あきらめ

俺の身のふりかた、今のとこ、どうにもならず、
元より俺に、
盜みする勇氣は無し。——

仕方なし、
あきらめろ、あきらめろ、あきらめろ！
一旦は、あきらめられずとあきらめたが、——
その心をまたあきらめろ！

たゞ少し、晝の殘りの、
古綿のやうなカサ〳〵の食パンをかぢれば、
いつの間にか涙がにじむ。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

Asia Library

寂しき家より

小剣

■死

フイと氣が向いたので、こんな平凡な題で、平凡なことを書く。題は平凡でも、これほど確かなことはない。僕は全体物事を信じない性質で、過去のことはもとより、將來のことも一向信ずる氣にならぬ。當てにならぬのは天氣豫報ばかりぢやないと思つてゐる。しかし『死』といふことだけは確に信じてゐる。大地を打つ槌は外れても我々が早晩『死』ぬるといふ豫言は外れないだらうと思ふ。もう百年も經つて見給へ今年生れた赤ん坊まで皆灰になつてる、白骨になつてる。君の所謂征服者も被征服者も――

强いと弱いと、悧好と馬鹿と。この二つの問題を外にして、人間の世の中には何もあるまい。强いから勝つ、弱いから負ける。悧好だから人を使ふ、馬鹿だから人に使はれる。…………極めて簡單なものだ。

僕は勝つて威張る奴が嫌いだとゝもに、負けて泣き事を言ふ奴も嫌いだ。負けたから血眼になつて、復讐に勝たうとする奴は嫌いでないが、詰まらぬことをすると、笑「ひたくなる。なぜ『ハヽヽヽ、負かしやがつた』と平氣で濟ましてはゐられないか。…………勝つたものも、負けたものも落ちつく先きは何うせ白骨ぢやないか、灰ぢやないか。

悧好で欺いた奴をえらいとも思はんが、馬鹿で欺かれた奴を憐れむ氣にはならん。蜂でも飛ばして其の泣き面を刺さしてやりたいやうな氣のすることもある。これは他人に對してばかりぢやない、自分に對してもさうだ。(自分も他人の一つだ) 夜が更ける、雨が降る、傘がない、電車が無くなる、下駄の鼻緒が切れる、泊めて貰うと思つて、漸く辿り付いた友達の家は移轉して行衛不明。…………かういふ境地に立つた時、自分が自分に對して如何に痛快を感ずるか。汗を拭き〳〵漸く駈け付けたプラットフォームには、滊車がなくて、烟だけ殘つてゐた時の痛快ごころぢやない。

負けるといふこと、欺かれるといふこと。いづれも、他人のことなると自分のことたるとを問はず、痛快ぢやないか。

麴町から本鄕まで、毎晩テク〳〵とエスペラントーを敎へに行つて、月末に貰つた給金を電車の中で掏られた時、大に痛快を感じた語學者大杉榮氏には、この自個を客觀した痛快さが解せらるゝことゝ思ふ。

僕は他人の家を訪問する時、毎も『先方が留守だといゝ』とさう思ふ。この醜い、厭やな、飽き〳〵した自分の身體に、無駄足をさしてやることが、如何にも小氣味がよいのだ。されば時としては、格子戸も開けて見ないで、一間も二間も此方から軒先きや、門の扉を眺めたゞけで『留守』と自ら決定して、この厭やな肉體に、小氣味のよい無駄足をさしてやることもある。寒風吹き荒ぶ夕暮れ、大杉榮氏の家の前まで行つて、自らこの肉體にこの小氣味のよい無駄足を喰はせ、溜飲を下げて戻らうとなると、殘念にも、何處かへ買物に行つて歸つて來た保子の方に出くわし、到頭暖かい家の中へ引き上げられた不幸もあつた。

堺翁は分類の好きな人で、いろ〳〵の人間を三つか四つかの分類箱に押し込まうとするが、大杉榮氏なごにも、だいぶこの分類癖がある。征服者と被征服者とに分類するなごも、其の癖の一つだが、更に勝つたもの、悧好であつたものを憎み、負けたもの、馬鹿であつたものゝ味方をするのを好

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

む果ては、自分の氣に入らぬことをいふものを惡口し、喧嘩の仲間入りをしないものを外道とするやうなことのあるのは、まだ〳〵自個を觀る眼が幼稚であることを示すものであらう。

『右肺の尖端に水泡音がして』もしなくとも、人間といふものは皆『死』ぬんだといふ平凡なことを、平凡に考へたゞけでも、下らんことは言ひッコなしにして、谷底へ突き落されたものなら、藤蔓や葛に取り縋る醜態を見せずに、落ちるところまで落ちて、更に上から石を投げて呉れるものゝある痛快さを待たうぢやないか。

もう書くことがなくなつた。これを雜誌に出す勇氣ありや。

因に堺翁までが『老人組』といはれたのを悲觀してゐるやうだが、老人といひ若者といつても一萬年と違ふのぢやない。武内宿禰がまだ生きてござらッしやッても、二千年何ヶ月くらゐのところ、三千年とはなつてゐまい。我々に比らべてさう老人でもないぢやないか。

■ 榮

小劍と堺、或は小劍と僕との間に、よくコンニャク問答と云ふのが始まる。何にかの問題がキッカケになつて、はがきの論戰が始まる。とりとめのない、遂に要領を得ない、そして果てしのない論戰である。いつか折があつたら、この問答を雜誌に載せて見たいと思つてゐたのだが、いつもそのはがきが紛失してゐて、思ふやうに行かない。

こんども僕の方からのはがきは、總て紛失してゐる。

前號の雜誌が餘程お氣にさわつたものと見えて、小劍から、こんな下らない原稿を送つてよこした。自己を客觀する事が自分等の專賣でゝもあるかのやうに云ふ、この頃のヘッポコ文士然たる態度が、頗る可笑しい。『そこで早速はがきでさう云つてやると、折返して次のやうな返事が來た。

■ 小劍

『ヘッポコ文士』を侮辱の最大級のやうに思つてるらしいが、『ヘッポコ』甚だ結構ぢやないか。第一發音がよい。

兎に角僕も、人が堅法華流の勝手な事を言ふと、こつちもまた達磨流の勝手な事を言つてみたくなるのは、我れながら淺間しいと思ふ。早く明中水中浮底の無樂無愁境に入つて、沈默山人になりたいと思つてる。

あゝ馬鹿々々しい。

自分の言ふことは正しい――とかう思ふことだけはよしてくれ。

飲めや唄へや、コリヤ〳〵、

併し君も僕も今に死ぬといふことは事實だよ。

榮

■

二度目の僕のはがきに云ふ。

『今に死ぬと云ふは事實だ。けれども今生きてゐると云ふ事は、更にそれ以上の事實だ。

飲めや唄へやコリヤ〳〵で生きて行くのも面白からう。泣いたり怒つたりして生きて行くのも面白からう。明月水中浮底の無樂無愁で生きて行くのも面白からう。

けれども君を始め今のヘッポコ文士等はそのどの一つだつて碌に出來やしないぢやないか。

自分の言ふことは正しい。とかう思ふだけよしてくれなどゝ餘計な事を云つて來るのは、君自身のヘッポコ哲學と矛盾しやしなゐか。

こんど何處かで會つたら、溝の中へでもたゝき込んで、大いに痛快がらしてやるべいかな。』

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

そしてはがきの表に、特にヘツポコ文士上司小劍樣と書いてやつた。實は名を書かないで、それで郵便がとゞいたら、それ見ろ、郵便屋だつて、君のヘツポコを知つてらあ、と云つてやるつもりだつたのだが。

■寂しき家より　ヘツポコ生

『何一つ碌に出來やしない。』は實に當つてゐる。醉ふことも出來ず、怒ることも出來ず、泣くことも出來ず、山氣を出すことも出來ず、さりとて悟りを開くことも出來ず。『碌でなし』とは眞に僕等の事なり。

『飢ゑたるものは食を擇ばず』で、今はもう何でもよいから、アミダでも、ヤソでも、科學でも、藝術でも、一つ確信し、執着したものを引つ捉へたいとばかり望んでゐるが、それが出來さうにもない。君や荒畑君や乃至は相馬君や岩野君が、元氣のいゝことを言ふのが、實に羨ましい。僕も一つシンから徹底した、眞面目の、シンケンな心になつてみたいと思ふが、何うしてもそれが出來ぬ。

昨日の考へと、今日の考へと、朝の思ひと、夕の想ひとが、全で反對になる。自分の言ふことを正しいなぞとは決して思ひ得ない。

詰まらなく生れて、詰まらなく活きて、詰まらなく死ぬ。ヘツポコのヘツポコたる所以だらう。

決してイヤ味をいふのではない。　普通の人間なら、あんな徒に人を怒らすやうな、出たら目の原稿とも手紙とも付かぬものを突然人の家へ郵送しないが、僕は只フラ〳〵と喧嘩を買つてみたくなるので、それも別に強く自分の言ひ分を信じて押し通して行かうとする根氣があるのぢやない。

從つて、先方から何んな返事が來ても、ヘツポコと肩書きされても、溝の中へ突き轉ばすと言はれても、普通の人なら、後は兎も角、一時はムツと自分勝手に腹を立てるところだらうが、僕は唯自分の詰まらなさを思ふだけで、腹も立たぬ。腹も立て得ない。――さりとて泣く心にも、笑ふ心にもなれぬ。

何か斯う一つ自信のあるものを書いてみたいとも思ふが、ペンを執ると直ぐ『詰まらない、馬鹿氣てる』が先きに立つて書く氣にもなれぬ。しかし詰まらぬ、馬鹿氣てる、一切書くまい。と確定したのでもない。矢張りまた書きたくもなる。――かうしてボンヤリ日を送つてる。

怯懦にして卑屈なる僕は、只寂しい。そして怖い。――

■　榮

そして小劍は、更に讀賣新聞の日曜附錄に、ほめたんだかひやかしたんだか分らない、妙な提灯持ちを書いた。

■小ひさき窓より　小劍

『近代思想』といふ雜誌は、紙雛のやうな可愛らしいものであるが、內容に力の充ちてゐることは、他の幾百ページの大雜誌にも類が尠い。

さうして其の言ふことの當否は別として方々の印刷物で往々見るやうな、お座なりの思ひ付きや、チヤラツポコで、所謂お茶を濁してゐるのではなく、孰れも思ひ詰めた、言はでは已み難きこと、研究思索の結果になることを、膨れ切つた嚢の小ひさい穴から自然に發散させて、若しこの穴が閉がらば嚢は破裂して大きな音をさせるといふ樣子に見える。

試に其の七月號を披いて見ても、始めから終まで元氣のいゝ、えらさうなことばかりが並んである。私は其の中のドグマを見

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

ろより先きに、其の元氣に感心して、何うしてあゝ元氣のよい物の言ひ方の出來るものかと、感心もし、羨ましくも思つた。

酒を飲むことも出來ず、飲んでも醉ふことの出來ぬ私は、時折酒の席で、平生は温和しい人が、全で腦髓の入れ變つたやうになつて、高聲で罵しつたり、存分に言ひたいことを言つたり、唄つたり、笑つたり、變な形をして三味線を彈き出したりするのを見て、それを驚くよりも、何うしてあんなに飮むことが出來るか、醉ふことが出來るか、醉つて自由に喋舌ることが出來るかと羨ましくなる。

かういふ時、私の神經は常に冴えて、平常よりもなほ沈みに沈んで、深く自分を考へるといふことより外は、隣席の人に話しかけられても、舌が搦み咽喉が支へて、いつもの通りには物も言はれない。

敢て『近代思想』を醉客の高談放論に比するのではないが、この雜誌に披いた時、私は每も、酒の席で自分だけは『賑かな寂寥』に沈み切つてゐる時と同じ氣持ちになつて、何うすれば、あゝ恍惚と面白さうに、或は元氣よくキビ〳〵と物が言へるかと羨ましくなる。

何事にも恍惚となることが出來ずに、動もすると總てを滑稽にして了はうとする醜き哀なものは、アヘンを服んでも恐らくは醉ふことが出來さうもないと思はれる。

■思想問題（上田敏著）

從來『專ら文藝を論じ來つた著者が、今思想問題と云ふ總名の下に、藝術以外の所論を公に』し、以て『全体に生き』んとする其の努力を示したものである。

『思想界と其問題』以下二十篇、清新なる泉の湧いて出るやうな其の思想、其の文章あらゆる思想問題の根底の上に滾々として注ぎかけるの感がある。其の中心思想は、ベルグソンとメーテルリンクとを合せて、それを多少稀薄にしたやうなものであるが、殊に後者は著者が餘程私淑する所と見えて、到處に其の思想の片影が現はれてゐる。又最後の二篇『新道德說』及び『正義の不可思議』は、恐らくはメーテルリンクの論文中の最も興味あるのゝ飜譯である。此の二篇だけでも、十分に、世間に推獎する價があると思ふ。（榮）（金一圓卅錢麴町區平河町近代文藝社）

■大雜誌と小雜誌

□『ナショナル』は大雜誌だ。菊倍版紙數百二十頁、全誌悉く光澤紙を用ひ、每號平岡權八郎が油繪の表抵畫を描き、一頁大の寫眞版をフンダンに挿入してゐる大雜誌である。

□然し『ナショナル』の特色は、蓋し他に在つて存するので、即ちその編輯法を全然米國雜誌に則つて、本文の組み方にも寫眞の作り方にも廣告の入れ方にも、日本の雜誌界に新記錄を作つた工夫意匠を凝してゐる。その內容の如きも、飽く迄新奇に、そして實益の飯を趣味の茶漬にして喰せやうとしてゐる苦心が見へる。

□七月號若宮卯之助君の『多く書を作れば限無し』といふ論文中、ゼエムスの『戰爭論』が兵役を廢して勞働役を課すといふのを、想像の翼九天の上を翔けるなんと敬服してゐるが、そんな事は社會主義者が百年も昔から云てる事じやないか。（金卅五錢京橋區木挽町五の六同社）

■『ダイヤモンド』は小雜誌だ。またその內容は實業界に限られてゐるが、然し石山社長然とヒキ締つた、山椒の實のやうな小雜誌だ。（金十錢赤坂區田町二の一八同社）

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

人間屠殺所

佐藤緑葉

ウイルヘルム・ラムスヾスといふ獨逸人の書いた『人間屠殺所』（The Human Slaughter-house 英譯名）といふ書物が、近頃大分歐米の評壇を騷がしてゐるやうだ。その英譯の亞米利加版にはアルフレッド・ノイエスが序文を書いてゐる。僕はまだ此の書物を手にしてゐないから、勿論紹介といふ程のものを書く事は出來ないが、向うの雜誌によつて其の一端を窺ふ處によると、大分センセーショナルな處はあるが、研究するに足るべき作であるやうに思はれる。

『人間屠殺所』は近代の戰爭の恐怖を書いたものである。其の主意は功名心の強い獨逸皇帝のミリタリズムに反對したものであつて、之れと同時に世界の平和といふ事を主張してゐるのである。面白い事にはこの書物は出版後三ケ月目にカイゼルの名によつて發賣禁止を命ぜられ、同時に著者なるラムスヾスは或る公立學校の校長であつたが其の職を免ぜられた事である。その上更に面白い事には、親を見眞似のミリタリズムの主張者なる同國のクラウンプリンスが、この書物に反對して、幼稚な美しい勝利の光榮の圖數葉を挿入せる軍國主義鼓吹の著述を出版した事である。しかも『人間屠殺所』は獨逸國内に於て、發賣禁止までに既に十萬部を賣りつくしたといふ事である。

ラムスヾスによれば、近代の戰爭は人間と機械との爭鬪である。人と人とが或る少數者の功名心の爲めに殺しあふ事さへ言語道斷であるのに、今では人と機械とが恐るべき鬪ひをなして、尊むべき血と肉とはマシーンの爲めに四分五裂の慘澹たる目に會ひ、化學研究室のみ冷やかなる勝利の笑ひをもらすといふのである。

この書物は一人の兵士が從軍するに初まつてゐる。彼の聯隊は今戰爭のあつたばかりの地へ進んで行く。彼の第一印象は即ち多くの戰死者がまだ葬られずに戰場にごろ〳〵してゐるのを見るに初まる。其の一節に次のやうな處がある。

彼等（兵士等）は怪奇な恰好をして、死んで、堅

くなつてゐる。恰も死といふものが、其の形をこゝに示さうと試みたやうである。常に循環してゐる死には何等かの企てがあるものだ。手を外の方にひろげて――指は草の上を這つて――顔を上に向けて仆れてゐる――その上に又仆れてゐる者は手を堅く其の腹に押しあてゝ、恰も傷口を奪ひ去らんとするが如くにして死んでゐる。

私は故郷にゐた時、曾て人が羊を殺すのを見た事がある。先づそこに獸が横つてゐて、屠獸手のくるのを待つてゐる。小さなナイフが其の氣管と大靜脈とを切り離すと、温い血がごぼ／＼と頸から湧いて出る。私はたゞ羊の大きな眼を見得たばかりである。恐れに滿ちてじつと見つめてゐるその眼が如何に大きくなつたらう、が、とう／＼其の眼も鈍い色に變つて了つた。

そこに横つてゐる總ての身体は、恰も大空に向つて鳴いてゐるやうで、その眼はかういふ鈍い色に變つてゐる。彼等は屠殺所に横つてゐるが如くに横つてゐる。さうだ、擊たれて、さうして仆れて死んで了ふ――そこには何も騷ぎたてる事などは無いのだ！　併し胸を打ち貫かれたり、腹を打ちぬかれたりすれば、その傷の爲めに數時間熱に燃えたり、その痛む身体を濕つた草の上に横へて、冷やかなる青空を見あげなければならぬ。何となれば汝の呪はれたる眼は、他の物を眺める事を拒まれたのである――

私は彼等から眼を轉じた。そして之等のあざ笑ふやうな、怪奇な、死のポーズス・プラスチクスを看過しようと努めた。

やがて彼の聯隊は機關砲によつて掩護せられたる森林に突擊すべき事を命せられる。こゝで談話者は初めて火の洗禮を受けるのである。その一節を譯述する。

吾々が立ちあがると、森の中の機關砲がブッブッと鳴り初めた。そうして吾が列内へ彈丸が雨のやうに降つてくる。右にも左にも悲鳴をあげる者が出る。ツイと立ち上つて、くる／＼と廻つて地に倒れて了ふ。

『伏せ！　速射！』

中隊は直ちに伏射の姿勢をとつて、吾々は再び

森に向つて絶望的な一齊射擊をあびせかけた。けれども敵の影をも捕へる事は出來ない。一本の腕すらも吾々の前に擧がらない。たゞ一人の眼も吾々に挑む者はない。森は、綠の森は、たゞ一人の敵が吾々の眼の前にあらはれる前に、遙か彼方から吾々を屠り殺すのである。

私の左右にては連發銃が絶えず呟いてゐる。そうしてその嘲笑ふが如き音は、私の血を狂はせ、吾が眼の前に眞紅なものを見せる……………

『立て！　前へ！　驅け足！』

若い華々しい中隊長が突進する………彼は勇ましく其の劍を頭の上に振つてゐる………畫家に見せたい圖だ。私はそのあとにつゞいて突進した………彼の叫び聲が私の耳にきこえる………ついで華々しい幻が眼の前の處にゆれ動く………劍がその手から飛んだ——中隊長は短かい堅い切株の中によろ〳〵倒れて、顏を上にして橫はつた……森の中からくるブッ〳〵といふ音以外には、私は何の音もきく事は出來ない……『伏せ！　速射！』……私は前方に向つてそこに伏した、私の銃はいつでも打てるやうにしてある………けれどもなぜ命令が下らないのだらう？　中隊長からは何等の叫び聲がきこえてこない………吾々に最も近い人でも優に二十步の彼方にある………

この戰ひは勝利に終つたが、次で敗北の慘澹たる光景が書いてある。夜襲の模樣がある。榴散彈の破裂、地雷火の爆發がある。地は大きな口を開き、電光は閃めき、天は裂けるが如くに振動する。狂人のやうに鳴りわめく苦痛の聲、胴体の微盡になつて飛び散るさまが驚くべき力を以て寫されてある。あたりには手や、足や、首や、胴などの飛び亂れてゐる樣子が、さながら眼に見るやうに描かれてゐる。

紐育タイムスの記者によれば、之等の恐るべき光景は、併も少しの誇張する處なく書かれてあるといふ。アルフレッド・ノイエスはいふ『この書一たび公衆の前に置かるゝならば、ミリタリズムは一年にして其の生命を失ふであらう』云々。

人と超人

バアナード・ショウ作
堺利彦譯

第二幕（つゞき）

ストレーカー　ロビンソンさん、まあ聞いて下さい。私達が二人で自働車で出かける時には、いつも二枚新聞を持つて行きます、タナアさんのが『タイムス』、私のが『リーダー』か『エコー』。所が、私が私の新聞を見ることなんぞありやしませんや、滅多に。『リーダー』はタナアさんが引ッたくつて了つて、私にや面白くもない『タイムス』をあてがつて置くんです。

オクテビアス　『タイムス』に誰ぞ賭を取つた者が出て居ませんか。

タナア　エンリーは賭事は嫌ひなんだよ、君。只自働車の報告だけに夢中なんだ。今日はどんな事があるね。

ストレーカー　巴里ビスクラ間、平均一時間四十マイル、地中海は別にして。

タナア　幾ら殺された？

ストレーカー　のろまの羊が二疋。そんなこと平氣でさ。羊なんぞ幾らも仕やしないし、飼主も代金さへ貰へば、肉屋まで賣りに行く世話が無くて喜んで居ますア。だが、今に御覽なさい、矢張り何のかのと攻擊がありますア。そして佛蘭西の政府が差止めますア。そうするとモウ我々のやる時はありやしない。ねえ、そうでせう。ほんとに厭になッちまふ、タナアさんはやれば出來るくせに一度も思ふ存分走つた事はありやしない。

タナア　テビー、君は僕の小父のジエームスを記憶してるか。

オクテビアス　あゝ。なぜ？。

タナア　あの小父はね、名人のコックを雇つて居て、それの料理した物でなくちや消化が出來なかつたんだ。所が、小父は內氣な男で、世間に交際する事なんぞ嫌だつたけれど、其コックは又腕自慢で、貴公子連や大官の人々に御馳走を出したがつて居たんだ。そこで小父は其コックの足を止めたいばかりに、可愛そうに每月二度盛宴を張つて、その氣苦勞を我慢して居たんだ。サア所が、

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

それが今度は僕と此の『新しき男』エンリー・ストレーカーといふ先生なんだ。僕は旅行は大嫌ひだが、此男は少々好だ。然るに此男は皮の上衣に塵よけ眼鏡で騒ぎまはり、全身に埃の二寸ばかりも積らせて、そして一時間六十マイルの速力か何かで、自分の命と僕の命とを危險に曝すより外に道樂は無いんだ。尤も、器械に狂ひが出來て、自働車の下に這ひこんで、泥の上に仰向になつてそれを直す時だけは別だらうがね。所で何さ、僕が少くとも二週間に一度、一千マイルの遠乘をやらせなからうものなら、先生すぐに僕に暇を呉れて、アメリカの富豪の處にでも行つて了ふんだ。そうすりや君、僕はあの厭に丁寧な、一々恭々しく帽子に手を當てたりする、素人別當（譯？）を雇ひこんで我慢しなくちやならない事になるんだ。だからさ、丁度僕の小父が其コックの奴隷になつてたと同じに、僕は此エンリーの奴隷になつてるんだ。

ストレーカー（プン〳〵して）馬鹿々々しい！。タナアさんの口ほど早く走る自働車がほしいもんだ。私は、折角の自働車を使はなくちや金か損になると云ふんです。若し自働車と私とを使へるだけ使はないほどなら、いつそ乳母車に乘つて子守娘にそれを押させれば可いんです。

タナア（なだめるように）いゝよ君、ヘンリー、いゝよ。今すぐ又三十分ばかり乘るから。

ストレーカー（さもいやらしく）三十分ばかり！

（自働車の方に行き、それに打乘り、又新聞をひろげて讀む。）

オクテビアス　おう、それで思ひだした。ローダから君に手紙をことづけたよ。（タナアに手紙を渡す）

タナア（手紙を開きながら）多分これやローダがアンと悶着を始めだしたね。（譯？）凡そ英吉利の女の子が、母親を嫌ふより以上に嫌ふ人が只つた一人ある。そしてそれは外でもない、宗領の姉だと極つて居る。然しローダは又格別にアンよりも母親の方か好なんだ。一体あれは――（憤慨の口氣にて）オヤ！是は怪しからん。

オクテビアス　何だい？。

タナア　ローダは僕と一しよに自働車に乘つて行く筈になつて居たのだ。それをアン　僕と一しよに行く事はならんと云つて止めたと云ふんだ。

此時ストレーカーが頓に又例の口笛の歌を始める。それが好何にも態とらしく聞える。二人は此の雲雀の聲の様な歌の急に

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

起つたのに驚き、又その快活な調子の中に人を馬鹿にしたような節まはしのあるのに氣を牽かれて、一しょに振向いて、何だといふ樣にストレーカーの顔を見る。けれどもストレーカーは一心に新聞を讀んで居るので、其儘となる。

オクテビアス （向き直りて） 何とか其理由が示してあるかね？。

タナア　理由！。侮辱は理由に成らんよ。アンは如何なる場合にもロダと僕と二人きりで居てはイケナイと云ふんだ。僕は少女と交るには不適當な人物だと云んだ。所で君は今、君の模範婦人の事をどう思ふね？。

オクテビアス　君そこは善く考へてやらなきやならないよ、父親が無くなつて見ると、アンの責任は非常に重いんだからね。ローダは迚もホワイトフイルド夫人の手にや今はないし。

タナア （オクテビアスを見つめて） 要するに君はアンと同説だね。

オクテビアス　そうぢやない、けれども僕にはアンの心持が分るんだ。君の主義が、少女の性格を養成するに少し不適當だと云ふ事は君も許すだらう。

タナア　そんな事を許すもんか。僕は只、世間で少女の性格を養成すると云ふのは、大抵ウソばかり云つて聞かせる事だと云ふ事を許すね。然し僕が女子の信任を濫用する男だと云ふ樣な、そんなウソを云つて聞かせる事には反對するよ。

オクテビアス　アンはそんなことを云やしないよ、君。

タナア　そんなことを云はなきや何んと云ふんだ。

ストレーカー （アンが館の方から來るのを見つけて） ホワイトフイルド孃が見えましたよ。（彼は自働車を降りて、モウ己に用事は無いのだと云ふ樣な見えで、ブラ〳〵彼方に歩み去る。）

アン （オクテビアスとタナアとの間に出で來り） お早う。あのね、ジャック。ロードは又いつもの頭痛がして、それで今日あなたと一緒に自働車に乗れないの。可愛そうに、あの子はそりや失望して居たわ。

タナア　サア君はどう思ふ、テビー。

オクテビアス　君、誤解しちやいかんよ。アンは君に遠慮をしすぎて、それでツイ君を欺く事にも成るんだ。

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

アン　あなた方、なぜそんなことを云ふの?。

タナア　アン、あなたはローダの頭痛を直してやりたいと思ふかい?。

アン　無論だわ。

タナア　ぢや今云つた通りをローダに云つて御覽。そして僕がローダの手紙を受取つてそれを讀んでから二分間の後にあなたがこゝに來たのだと云つて御覽。

アン　ローダがあなたに手紙をよこしたつて!

タナア　何もかも皆んな書いてある。

オクテビアス　構やしないよ、アン。あなたに惡い事はない、少しも惡い事はない。アンは君、只義務を盡したのだよ。それは君にも分つてるだらう。而も君、最も親切に義務を盡したのだよ。

アン　(オクテビアスの方に寄り)あなた本當に親切だわねえ、テビー。私本當に助かるわ。あなた本當に善く私を理解して呉れるわねえ。

オクテビアス得意の色を浮べる。

タナア　そうらトグロが締まる。テビー、君はアンを愛してるわねえ。

オクテビアス　それはアンも善く知つてるさ。

アン　まあ、テビー!、いやだわそんなこと。

タナア　何ぁに僕が許す。僕は後見人だ。僕は是から一時間、ぁなたをテビーに托する。僕はチヨツト自働車で一廻りやつて來る。

アン　いけませんよ、ジャック。私あなたにローダのこと話さなくちやならない。リッキー、あなた内に行つてアメリカのお客のお相手をして下さいな。お母さんは朝ッぱらから彼人につかまつて、まだ臺所の御用も濟んで居ないんだから。

オクテビアス　あゝいゝとも。ぢや僕ア行くよ。

(と、アンの手にキスする。)

アン　(あどけなく)リキ、チキ、テビー!。

オクテビアスは顏を赤めて、心ありげにアンを打見やりて走り行く。

タナア　(ずけ〴〵と)サアどうだいアン。今度は參つたな。テビーはもう手の附けられないほどあなたに惚れこんでるんだから仕方がないけれど、それでなきやあなたの數の知れぬウソつきだと云ふ事が分る筈なんだ。

アン　そりやあなたの誤解だわ、ジャック。私テビーにや在の儘が云へなかつたんだもの。

タナア　在の儘が云へないで反對のウソが云へるんだ。僕の樣な惡い奴と一緒に居てはイケナイなんて、どうしてそんな事をローダに云ふんです。そんなひどい事をしてローダの心に毒を盛つちや、モウ僕とローダと人間らしい本當のツキアヒは出來やしない。

アン　そりや、あなたに惡い事の出來ないのは私知つてるけど――

タナア　それになぜローダにウソを云つたんです。

アン　仕方が無かつたんだもの。

タナア　仕方が無かつた!。

アン　お母さんがソウ云へと云つたんだもの。

タナア　(眼をキラリと光らせて)　ハハア、そうだッたつけ。お母さんが!。いつでもお母さんだ。

アン　それもあなたの、あの恐ろしい本からの事だわ。母はあの通りの臆病者でせう。臆病な女は皆んな世間並になるのか。世間並にならなきやあなた、そりや恐ろしい、ひどい誤解を受けるんだもの。御覽なさい、男だつても矢張りそうだわ、現にあなたが思ふ通りの事を云へば、直ぐに誤解されて甚く云はれるぢやありませんか。正直な所、私もあなたのこと惡く云つたわ。仕方が無かつたんだもの。それであなた矢張そんな風に、あのローダを人に誤解させて惡く云はせたいと思つて?。母としては、ローダが自分で判斷するほどの年になるまで、そんな目に會はせない樣にするのが當然ぢや無くて?。

タナア　要するに、誤解を避くるの道は、何人に取つても、只出來るだけきつくウソを云ひ、蔭口を云ひ、あてこすりを云ひ、体のいゝ事を云ふに在るのだ。あなたのお母さんに從ふ結果はそれだ。

アン　だつてお母さんだもの、あなた。

タナア　(社會學的の憤慨を發して)　幾ら母親に對してだつて、自分の心を自分の者にして惡いと云ふ理由は無い。僕は斷じて斯くの如き、老人に對する青年の屈從に反對する。まああの交際社會の有樣を御覽なさい、あなたも知つてるぢやないか。其の表面よりしてこれを見れば、如何にも麗はしき仙女のダンスであるが、其の實際よりして之を見れば、ミジメな娘共が凄まじい行列をして、それ

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

が皆んな母親と稱せらるゝ、殘忍な、狡猾な、貪慾な、熱の冷めた、無智の經驗を積んだ、心の汚れはてた老婆の爪に掛つて居る。そして其の母親たる者の任務は、娘の心を腐敗させて、最も高き價を拂ふ者に賣附けようとするに在る。然らばなせ又それ等の不幸なる奴隷が、結婚しそこなつては大變だと思つて、どんな老人でも惡漢でも構はず、直ぐに誰とでも結婚するかといふに、それは斯うである。其の母親と稱する老ぼれの惡魔は、親の義務といひ、子に對する恩愛といふ假面の下に、自分の身勝手な野心と、自分に取つて代つた若き競爭者に對する嫉妬憎惡の念とを押しかくして居るが、娘の身としては、結婚といふ事が其の毒手より逃れる唯一の手段である。斯くの如きは實に言語道斷の次第であつて、天然の聲の命ずる所に依れば、女の子は父親が之を世話し、男の子は母親が之を世話すべきである。彼の男の子は父に附き、女の子は母に附くといふは決して愛の法則でない。愛の法則は革命の法則であり、解放の法則であり、有力の青年を以て衰殘の老人を壓伏するの法則である。そこで宜しいか、成年に達したる男女の第一の義務は獨立の宣言である。我父の權威を擁護する男は男子にあらず、我母の權威を擁護する女は自由民の爲に其の子孫を産むに足る者にあらず。

アン（一種の好奇心を以てじつとタナアを見て居たが）あなたは今にキット本當に政治家になるんだわねえ。

タナア（ひどく失望落膽して）エエ？何に？何だつて？（といふ中漸く少し落ちついて）一体それが僕の今云つた事と何の關係があるんです。

アン　談話が旨いんだもの。

タナア　談話！談話！。あなたにや今云つた事が只談話と聞えるんだね。宜しい、ぢやモウお母さんの處に行つて、一緒にローダの心に毒を盛るがいゝ。あなたもそんなにして毒を盛られて來たんだ。馴れた象は野生の象を捕へる事を樂むものだ。

アン　私も少しづゝ立身するわねえ。昨日は青大將だつたが、今日は象になつた。

タナア　そうさ。だから早く其の鼻を片づけて彼方に行くがいゝ。僕はモウあなたに云ふ事は無

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

い。

アン　あなたそれぢや丸つきり無茶だわ。私どうすりや可いの？。

タナア　やるさ！鎖を切るさ。母親にばかり從ふことを止めて、自己の良心に依つて行動するさ。あなたの其心を清潔に強固にするさ。下らないケチな企らみの言譯なんぞばかり仕て居ないで、自働車を驅つて疾走する愉快でも味ふが可い。僕と一緒にマルセイユに行つて、アルジールに渡つてビスクラまで行つて見ようぢやないか、一時間六十マイルの速力で以て。若しお望みならズウット喜望峰まで行つてもいゝ。それこそ實に猛烈な獨立の宣言だ。そして跡であなたが其事を書いて本にでもするさいゝ。そうすりやお母さんが閉息して了つて、あなたが一人前の婦人に成るのだ。

アン（分別らしく）それにや何も別に惡いこそないと私思ふわ。あなたは私の後見人で、父の望に依つて父の代理に立つて居るのだもの、二人で一緒に旅行したつて誰も何んとも云へやしない。キット面白いわ、そりや。本當に有がどうよ、ジャツク。私行くわ。

タナア（呆れて）行く!!!

アン　えゝ行くわ。

タナア　だつて――（全くモウ呆れ返つて言葉がとぎれる。それから漸くの事で跡がつゞく。）それはイカンよ、アン。若しそれが何も別に惡い事でないといふ程なら、それをやる理由が無くなつて了ふ。

アン　馬鹿なことを仰いよ。あなた私に惡名を立てさせたか無いでせう。え？

タナア　いや立てさせたい。それが即ち僕の提案の主意なんだ。

アン　冗談も大抵におしなさいよ。あなたが私の爲にならないことする筈が無いぢやありませんか。

タナアいゝや、若し惡名を立てさせたくないなら來ないがいゝ。

アン（無邪氣に思ひこんだ樣子で）うゝん私行くのジヤツク。あなたが來いと云ふんだもの。あなたは私の後見人で、お互にモツト永く一緒に居て、モツト善く知り合つて置いた方がいゝんだもの。（感謝するらしく）あなたはねえジヤツク、こんな好い遊山を勸めてくれるなんて、本當に思ひやりがあつて、本當に親切だわ。殊に私今ローダの事であんなこと云つた跡だから猶嬉しいわ。あなたはねえ、自分に思ふよりかズツトもつと善い人ですよ。それで何時立つの？。

タナア　だつて――

此會話は、ホワイトフイルド夫人が舘からこゝに出て來たので妨げられる。夫人は彼のアメリカ紳士と連れ立つて、其跡にはラムズデンとオクテビアスとが續いて來る。

（未　完）

反譯漫語

澁　六

▲『英語青年』といふ雜誌に『人と超人』の批評が連載せられて居る。第一章のト書の處を譯した時には、僕もまだそんなに精密な直譯をする積りで無かつたので、(兎かく從來の抄譯癖が出て)意味のハツキリ分りかねた處や、小面倒くさい處などは、深く研究もせずに(全體の意味を損せぬと思ふ限り)少々好い加減にやつて置いた。そこを『英語青年』はさすが專門の語學道の事とて色々親切に批評してくれた。お蔭で色々智識を得た事を感謝する。

▲然し『英語青年』が、こゝは斯う直譯すべきだと敎へて吳れた一節に、どうも服しかねる所があつたので、直ぐに僕の意見を書き送つて置いた。それは或は『英語青年』記者の間違かと思つて居る。其中『英語青年』に載る事と思ふから、こゝには書かぬ。實は『英語青年』の其號を無くしたので書く事が出來ぬ。

▲又『英語青年』記者は『人と超人』を『凡人及超人』とせよと敎へてくれた。字面の上から云へば、是は如何にも面白い一說であるが、然し僕は意味の上からして贊成が出來ぬ。カーライルやニイチエのような英雄主義、超人主義の立場ならば、凡人と超人とを對比させてもよいが、『超人はまだ生れぬ』といひ、『超人の平民化』を說くショウの物としては、『凡人』では面白くない。凡人といふ言葉には、態と皮肉に用られる時の外、輕蔑の意味が含まれて居る。『英語青年』記者は、Man and Woman を『人及女』とは譯さず、『男及女』と譯すると同じ譯だと云はれるけれど、それは決して同じ譯でない。人間は男と女との二種に別れて居るけれど、超人と凡人との二種に別れて居るのではない。超人は實在の者ではない。超人は人間の一部ではない。超人は想像の產物である。尤も『英語青年』記者は押韻の點に重きを置いたので、『人と超人』とするなら人の字をジンと讀ませればいけないと云つて居る。然しそんな無理をせずとも人といふ字で目の感じだけは押韻の功を奏して居るのだから善さそうなものである。若し強いて押韻を貴ぶなら『人間及超人間』とするより外はない。それでもどうやら落ちつきの悪い氣持がする。

▲扨前々號以來、誤譯指摘をはやらせたいなどゝ云つて見たが、實はうるさくなつたからモウやめにする。尤も讀者諸君の御敎示は猶切に御願ひする次第で、あれこれの御敎示を合せて、此譯文完了の後、大いに修正を加へる積りであります。

▲然し僕は平生から、あまり精密な直譯は馬鹿々しいと思つて居る。どうせ日本語で精密な直譯は出來ぬ。それを仕ようとすればひどい無理が出來る。從つて形式ばかり精密な直譯では、大いに原文と意味を異にしたものになる。尤も一種の道樂として、成るべく精密に直譯をして見るのも、至極面白い事ではあるが、然しそれは多數讀者の爲になる事ではない。只外國語を讀む人の樂みだけの事である。

▲僕も此の道樂氣味からして『人と超人』だけは成るべく精密な直譯にして見たいと思つて居るけれど、直譯が必ずしも眞に『原文に忠實』なる所以でないといふ事だけは云つて置きたい。僕は『赤裸の人』の序文の中にも書いて置いた通り、反譯はどうせ原著者と反譯者との合作の樣なものだとさへ思つて居る。更に一歩を進むれば、反譯者は只自己の思想を現はす便宜の爲に或る他人の作を利用するのだと云つてもよい場合が多い。僕の反譯は、金を得る爲といふ理由と少々語學道樂の氣味とを除けば大體右の利用主義である。

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

大久保より

榮

■どうも頭の具合がわるい。この一週間ばかり毎日机に向つてゐるのだが、とう〳〵何んにも書けないで了つた。これから印刷所へ原稿を持つて行つて、其の足で、暫く何處かの海岸へでも、ぶらつきに行かうかと思つてゐる。

■堺も此頃は大分弱つてゐるやうだ。自分では胃腸がわるいのだと云つてゐるが、どうもオヴア・チークのせいらしい。きのふなぞは頭痛がすると云つて、しきりに頭を叩いてゐたが、やがて眞蒼になつて、なんだか嘔きさうだとか云つてゐた。

■それでもオヤヂさん中々頑固で、細君がしきりに醫者にみて貰ふ事をすゝめるのだが、どうしても行かうと云はない。そしてどうせ俺のからだは、醫者にみせれば、あちこちから故障が出來るのだらうから、なんだか恐ろしいやうな氣がする、などゝ云つてゐる。

■鴻の巣が麹町の隼町にひつこした。十二日に、そこで、第六回小集を開いた。集まるもの、お客の長谷川天溪氏の外に同人十五名。

堺　利　彦	高　畑　素　之
小　原　愼　三	土　岐　哀　果
和氣律次郎	久津見蕨村
片　山　潜	安　成　貞　雄
安　成　二　郎	伊　庭　孝
橫田淙次郎	荒　畑　寒　村
大　杉　榮	島　田　一　郎

■丁度伊庭が近代劇協會を退いて、大分問題になつてゐた時だから、貞雄を裁判長として、皆んなして隨分手嚴しく被告孝をいぢめた。そして要するに、裁判官の方が散々にやりこめられて、被告は無罪放免と云ふ事にきまつた。恐ろしい被告だ。

■こんどは僕自身なんにも書いてゐないのだから、ひとの事を云ふのも甚だうしろめたい譯だが、どうも仕やうのないのは安成の畜生だ。木村鷹太郎の何んと云ふ本か論文かの批評と、それに『七月の小説』を約束して置きながら、とう〳〵書かない、遅れ遅れて、やうやう今朝までと云ふ約束であつたが、ひる頃になつて行つて見ると、ゆうべ遅く歸つて、けさ早く出た、原稿は書いた樣子もない、と留守の妹君が云ふ。これだからあいつは出世しないんだ。仕方がないから〆切つて了ふ。

■九州日報の橫田淙治郎が上京した。ふるくからの同志だ。君によつて、此の小さな『近代思想』も、福岡の町だけで數十名の人に讀まれてゐる。

■堺は日本蓄音機商會をひいた。そして其の代りとして高畠が入つた。

■僕は又例の法華經の新譯を始めてゐる。

■荒畑と僕と發起して、本月の始めからセンヂカリスムの研究會を始めた。もう二回會合をしたが、毎月二回づゝ、二人で講演をやる筈だ。

—七月二十二日—

■僕は七月限りで日本新聞を退社した。近代思想の仕事、賣文社の仕事、シンヂカリスム研究會の仕事等の中から、日本新聞の仕事だけが拔けた譯で甚だ難有い。然し、生活費の大部分が失はれたので、此の方は甚だ心細い。大なヒマと大なるカネと、一致しないものかなア

——寒——

新刊

■罪と罰（ドストイエフスキー作 内田魯庵譯）

元來ドストイエフスキーの作物は、殊に其の『死人の家』や又此の『罪と罰』は、勿論藝術品として甚だ傑れてゐるのみならず、作中に殆んど想像の弄ばれてゐない所から、寧ろ藝術的作品と科學的著述との中間物と云つても善い程の氣がする。

ドストイエフスキー及び此の『罪と罰』との藝術的價値に就いては、殆んど餘地のないまでに、既に批評し紹介し盡されてゐる。けれども更に之れを科學的著述として殊に新しい犯罪學の見地から讀んで行くと、其處にいろ〳〵な面白い事實が發見せられる事と思ふ。

『罪と罰』は、殺人の氣にとりつかれた犯罪的狂人ラスコルニコフ、饑餓の爲めに賣淫を餘儀なくせられた、やさしいわかい娘ソニヤ、此の二人の道德的腐敗の解剖から始めて、その自然の經路を描き、その間に、甚だ大膽な、そして甚だ雄辯な、社會批評を暗示してゐる。僕は、近い中に、此の作物の中に現はれた、犯罪の動機、犯罪の方法、及び犯罪後の心理狀態等に就いて稍々詳細な犯罪學的觀察を下して見たいと思つてゐる。

譯文は、その序文の中に大ぶ皮肉な謙遜をしてゐるが、寧ろ、うま過ぎる程にうまい。そして譯者が飜譯の苦心を示した此の序文は、此頃流行の恐ろしい誤譯家先生達に、是非とも一讀をわずらはしたいものである。卷頭のバイオグラフイは有益なものだ。（榮）（金一圓四十錢、日本橋區丸善株式會社）

■生靈（正宗白鳥著）

小說『生靈』は著者の作品中、最も長篇を以て目すべきものゝ一であり、また最も傑出せるものゝ一であらう。その漸く圓熟して、渾然たる境地に入らんとせる技巧より云つて。將たその抛げやりな、如何にでもなるやうになれと云つたやうな、有ゆる渴仰憧憬に對するイリユウジヨンを失ひし如き、著者の人生觀の現はれてゐる點より見て。

但だ、些しく注意すべきは、從來著者が取扱ひ來れる此種の題材は、常に浮世の辛酸を嘗め盡して捨てばちになつた女や、生の倦怠に疲れ果てゝ凡てに對する興味感覺を痲痺させた如き男であつたが、此の『生靈』の主人公は、極めてウブな感情をもつた、まだ全く世馴れぬ少女である事である。語を換へて云へば、吾々はいつも白鳥に依て描かるゝ、既に靡爛癈頽せる生活を送り來つた男女のタイプを示さるゝ事なくして、是から實際生活に入らんとする一少女の心理的經過及び變化の描寫を見たのである。國の女學校を出て東京の父母の許に上る若い女の心理！止み難き內心の欲求と智識に對する抑へ難き思慕からでなく、單に華やかな氣儘な生活を慕つて、更に高等の學校に入らんとする若い女の心理！そして家庭の事情や周圍の境の爲とは、オメオメと一切の希望欲求を斷念して、見も知らぬ男の許へ嫁に往く若い女の心理！それを取卷いてゐる各種の性格や、空氣や、色彩が、如實に描き出されてゐる。

然し乍ら吾々は『生靈』に於ても白鳥一流の人生觀にブツかるを免がれない。即ち境遇事情に對する主人公の思想感情が、余りに抛げやりで、余りに忍從し過ぎてゐる。高等教育を斷念するにしても、見も知

Digitized by Google Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

らぬ男と結婚するにしても、執着が無さ過ぎ、思ひ切りがよ過ぎて、深い悲痛哀傷も無く、烈しい苦悶懊惱も無く、憧憬思慕の情全く缺けてゐる。然も讀者をして主人公の此の特殊なる性格を認容せしむるとは、他一切の性格が余りに類型的なるを免かれぬ。『生靈』一篇の讀了後、極めて淡い印象しか殘らぬのは、蓋し是れが爲ではなからうか。（寒）（金一圓麹町區平河町五金尾文淵堂）

■白痴（小川未明著）

『白痴』以下短篇十二を收む。著者の作物は、稀れに深刻痛切を極むるものあるにも拘はらず、遂に最後の突き詰めた處へ往くと、必らず徹底を缺き、逃げ路を作つてゐるのに、いつも失望しない事は無いのである。

いま試みに、卷頭『白痴』の一篇を擧げる。Kは失業して、冷淡な下宿の汚い一室に、主婦の聲を恐れ、下女の足音を恐れ運ばるゝ飯さへも遠慮勝ちにしてゐる。每日のやうに先輩知己の許を馳け廻つて、職業の口を賴むが、『誰一人自分の生活の心配を分つて吳れない……五千萬同胞といふ如き心持で知らぬ人の袂を捕へたら、狂人だと云ふだらう……社會といふものは、それほど個人的に出來てゐる……食ひ、働き、眠る事は大自然の掟である、それが出來ない社會に在ては自分が惡いのでは無い、萬人が惡い習慣を作つてそれに惱まされてゐる』と考へるまで、痛切深刻に生活の苦悶に觸れたるもに拘はらず、彼は遂に『お葉の指環を賣つた金で、一夜の歡樂を買はうと』欲してゐる。

吾々は必ずしも、文學者が社會的意識に觸れ生活の苦痛を描寫したるが故に、必然に社會主義的にならればならぬと云ふ程、爾く愚な者では無い。然し乍ら、如何すればアヽ迄突き詰めた煩悶を、フイと傍へ外らして了つて、ケロリとして居られるかと怪しまれるのである。そして此の思想に於ける不徹底、宙ブラは、また著者の作物全體を一貫せる、リアリズムとロマンチシズムとの織交ぜに照應してゐる。

片上天弦君は本書に序して、『……この原始的な純眞な感情の力は、この作品に無類の魅力を與へてゐる。君の作品を詩とするものは、實にこの醇なる小兒の心である。』と云つてゐる。然も人類が『生の惱み』に對する、根底の智識と洞察とを缺ける著者は、その作品を詩とする事は出來たかも知れないが、遂に社會的批判とする事が出來なつた。（寒）（金一圓十錢牛込區早稻田鶴卷町文影堂）

■月光（中村星湖譯）

モッパッサン作『月光』外二篇、及びアンドレイエフ作『外國人』外四篇の飜譯を集めたもの、何とも可憐な短篇ながら、此の佛國と露國との二大作家の面影を窺ふには充分である。譯もまた甚だ自由である。（寒）（金四十五錢神田區南神保町海外文藝社）

■我が婦人觀（黒岩周六著）

『淑女かゞみ』及び其の後身『婦人評論』に載せた、著者の婦人問題論集である。『女なるものが、此上もなき大の大の醜體を男子に認められるは、其の貞操を破る瞬間に於てゞある』と云ふ、オツト・ワイニンゲルの言葉を至上の眞理と認めて、婦人問題の一切を貞操　の上に置いた、隨分妙な議論ばかりだ。（榮）（金六十錢小石川區原町丙午出版社）

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

■寄贈雜誌■

馬上大學
內外教育評論
とりで
帝國文學
モザイク
新佛教
新東京
東京魁新聞
野の聲
村落通信
鑛業及鑛夫
聖盃
圖書評論
現代詩文
實業之世界
婦人評論
護教
凍野
新潮
人生と表現
白樺
大國民
ニコ〱
青鞜
獨立評論
新眞婦人
ダイヤモンド

■七月號目次■

新しき女(感想)……榮
生の擴充(評論)……大杉榮
續經濟學研究を讀む……高畠素之
綠蔭の家(感想)……荒畑寒村
果しなき議論の後(詩)……(故)石川啄木
逍遙先生の反譯振……貝塚澁六
仲木の虛無黨劇……寒村
一本のマッチ(詩)……德永保之助
悲鳴(小說)……和氣律次郎
人と超人(脚本)……堺利彥
近代思想社小集……暮村隱士

■本社取次書籍■

本社に於て次の新著を推奬し、取次販賣をする。御注文は成るべく振替貯金によられたい。價は定價通り、郵税は當方もち。

▲不平なく（土岐哀果著 金二十五錢）

▲生靈（正宗白鳥著 金一圓）

▲罪と罰（內田魯庵譯 金一圓四十錢）

▲生命論（永井潜著 金二圓五十錢）

▲現代思潮十講（桑木嚴翼著 金一圓）

▲思想問題（上田敏著 金一圓三十錢）

▲啄木遺稿（石川啄木著 金九十錢）

▲煙（ツルゲーネフ作 大貫晶川譯 金一圓）

▲武器と人（市川又彥譯 金六十錢）

▲人形の家（イブセン作 島村抱月譯 金九十錢）

■定價一册金十錢、半年分前金五十五錢、一年分前金一圓。但し外國は別に一册金二錢宛の郵税を要す。
■郵劵代用は五厘切手に限る。但し一割増の事。
■廣告料特別一頁十五圓、普通十圓。
■本社振替貯金番號一七一六三。

大正二年七月二十九日印刷納本
大正二年八月一日發行

編輯兼發行人　府下大久保百人町三五二 近代思想社內　大杉榮
印刷人　府下大久保百人町三五二　荒畑勝三
印刷所　京橋區銀座四丁目一番地　敎文舘印刷所
大賣捌所　東京堂、上田屋、東海堂、北隆舘

地六社復刻版

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

東京帝國大學醫科大學助教授
醫學博士 永井潛先生著

最新刊

生命論

●純白布製天金箱入菊版判四百頁挿畫三色寫眞版アート紙四十餘枚
●定價 金二圓五十錢
●送料 金十二錢

生命に關する思想變遷の跡を繹ね、**生活現象**の特色を細説し、而して**最新**の**科學的見地**に立ちて之に明晰なる解釋を下せる者、是れ即本書の內容たり。就中、近時驚くべき長大足の進歩を遂げ、理論に實際に、最も重要なる地位を占むる**實驗遺傳學說**の如きは、實に**邦文**に於て**記載**せられたる者の、**權輿**にして、又叙述最も力を竭せり。加之**生命人造論**として全世界の視聽を聳動せしめたるシェファー教授の『生命其性質起原及保續』と題せる講演の全文を譯出して、卷末に附し、讀者をして錦上更に花を添ふるの感あらしむ。思ふに生命の解釋は實に**人生**の**根本問題**にして、而して今や**思想界**の**興味**の中心となれり！

發行所 東京市麴町二丁目二番地 振替東京二〇九一一四番 電話番町四二五八 洛陽堂

賣文社

作文、反譯一切の業

務を取扱ふ猶 **圖案意匠**

部寫字部速記部等の設あり **業務**親切

丁寧 **迅速** 近地は御申越次第社員參上

御用命を伺ふ **營業案內**

御入用の方は **往復**葉書にて申込あれ

東京市京橋區南佐柄木町三

堺利彦

人若し藥を需めんとせば須く撰擇を要す

清心丹の三大特色は

一、効能の確實

二、品質の善良

三、價格の低廉

主治効能

心思欝發、頭痛眩暈、胸痛腹痛、過酒過食、惡心嘔吐、溜飲、宿食、中暑、中寒、下痢、痳痢、舟車不快、喀痰咳嗽、咽喉不調、齒痛口臭

定價 壹圓箱入 五拾錢箱入 參拾錢鑵入 拾五錢鑵入 拾貳錢瓶入 貳拾錢紙包 拾錢紙包 五錢紙包

本舖 東京市日本橋區元大坂町八番地 **高木與兵衛**

『萬朝報』社長 涙香 黒岩周六先生著

予が婦人觀

三六判美本
定價六十錢
郵稅八錢

進歩的にして却て稍保守的の檢束あり古きが如くして實は極めて新しき趣味を有する黒岩先生の婦人觀はトルストイ的の

對貞操觀に配合するに經濟的獨立の實際問題を以てし種々樣々の方面よりして斷案の片鱗

しつゝ遂に人をして成程と承服せしむる老巧親切の文を爲す眞に現今婦人問題の燈明臺也世の年頃の娘

父母及び女子教育家の精讀を冀ふ

文學博士 村上專精先生著
▲女性訓
定價四十錢 郵稅六錢

藤井瑞枝女史著
▲亂れ雲
定價八十錢 郵稅八錢

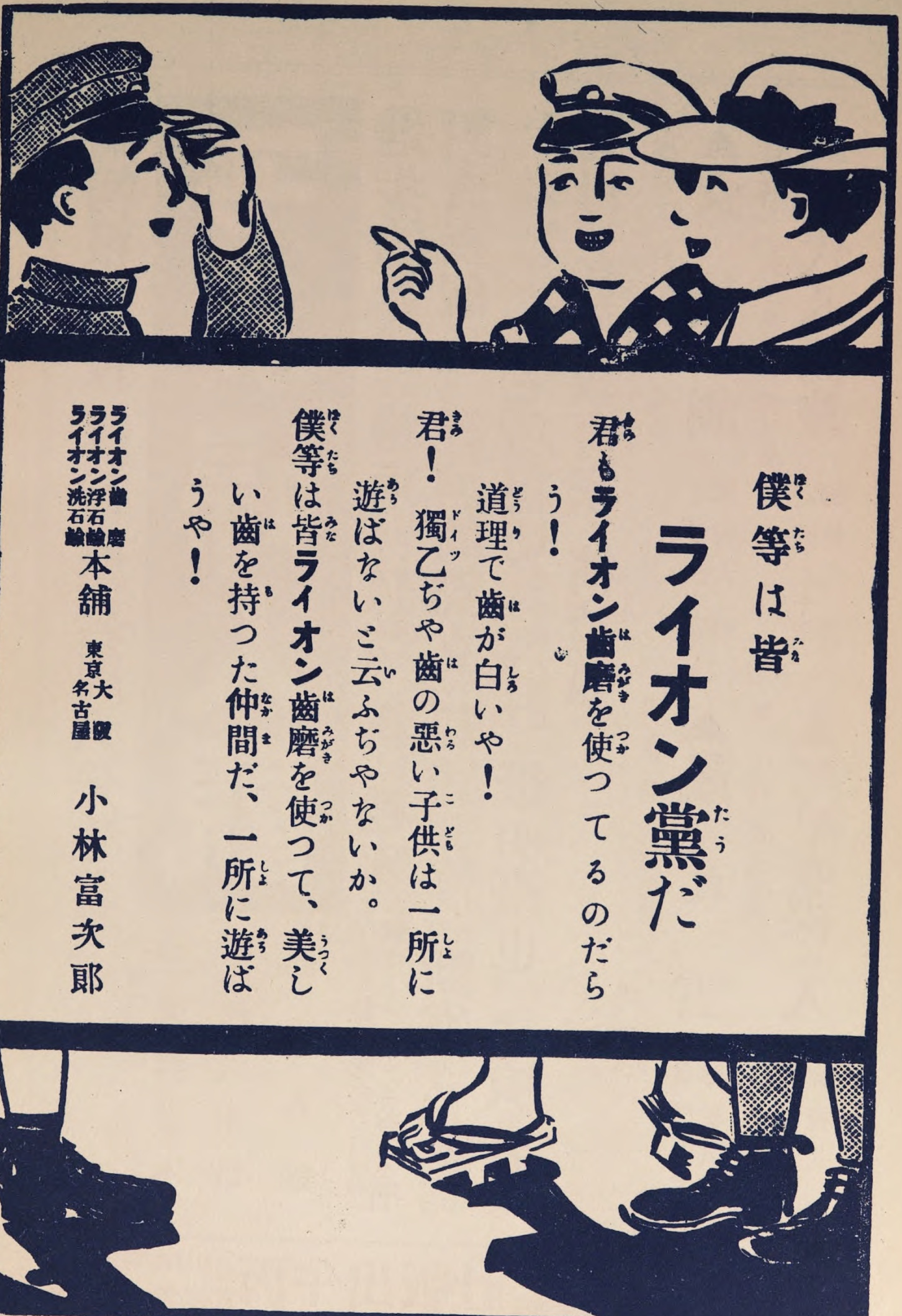
暮村隱士 久津見蕨村先生著
▲現代八面鋒
定價八十錢 郵稅八錢

堺利彥先生譯
▲ルソー自傳 赤裸の人
定價九十錢 郵稅八錢

東京小石川區原町六 丙午[出版社] 振替東京一五八六八

原町六 鷄聲堂 二[四]三五三

近代思想
第一巻第十一號
大正元年十月一日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
大正二年七月三十日印刷納本（大正二年八月一日發行）
八月號
金十錢

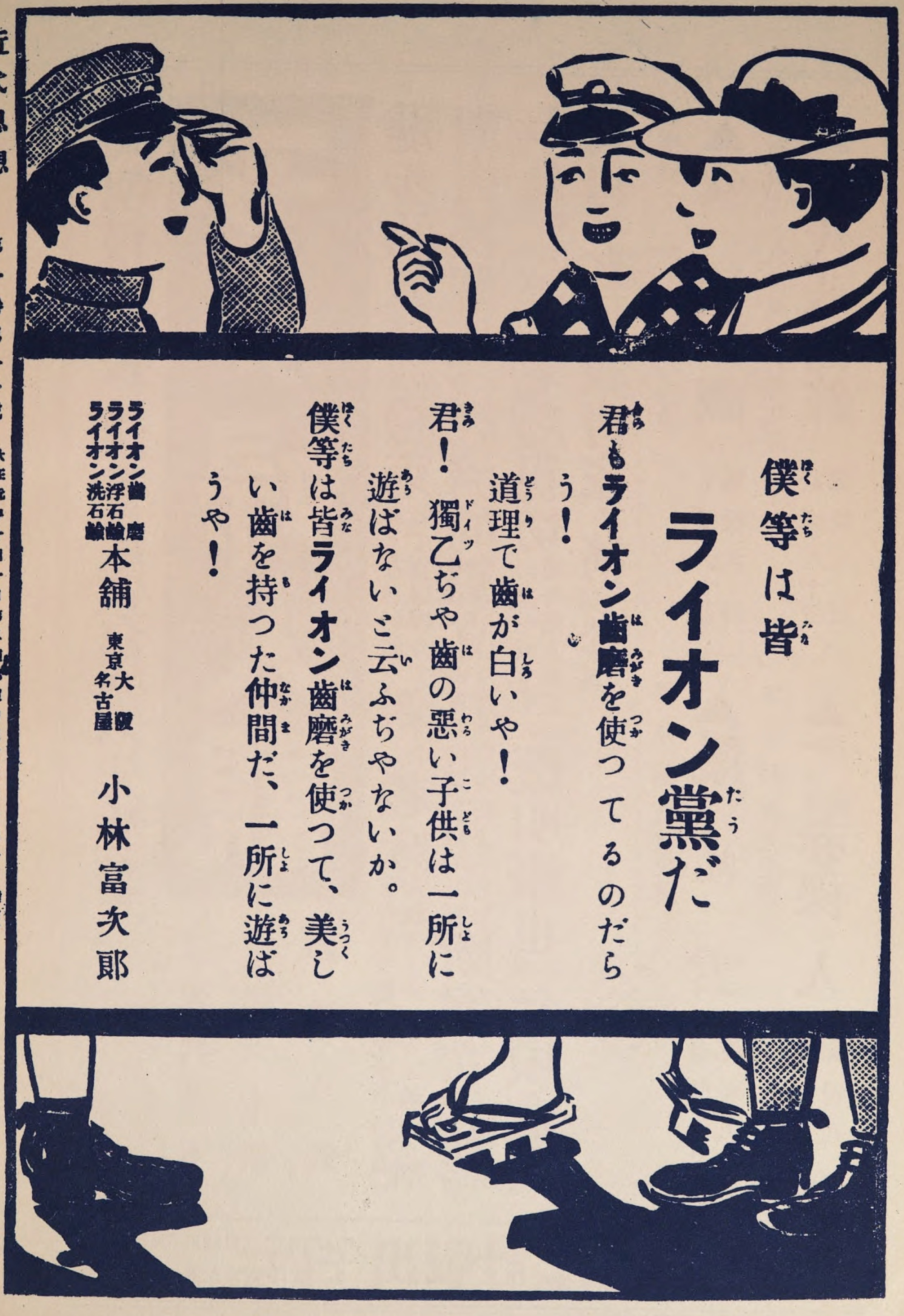


Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

近代思想

第一卷第十一號

大正元年十月一日第三種郵便物認可（毎月一回一日發行）
大正二年七月三十日印刷納本（大正二年八月一日發行）

八月號

金十錢